2012年 7月13日

会社名　　Ｊ.フロント リテイリング株式会社
コード番号　3086
代表者名　　代表取締役会長兼最高経営責任者
　　奥　田　　務
お問合せ先　経営計画事業統括部
　　グループ広報･ＩＲ担当
ＴＥＬ　　03-6895-0178

２０１２年６月度　Ｊ．フロント リテイリング　連結営業報告

１．セグメント別売上高（対前年増減率：%）

	６月度	３～６月度累計
百貨店事業	▲ 1.2 （ ▲ 0.1 ）	2.4 （ 3.4 ）
ｽｰﾊﾟｰﾏｰｹｯﾄ事業	▲ 9.6	▲ 10.0
卸売事業	37.6	6.0
ｸﾚｼﾞｯﾄ事業	3.9	5.9
その他事業	▲ 7.0	10.5
連　結　合　計	▲ 1.4	0.9

（注）百貨店業合計の（　）内は博多大丸長崎店(2011年7月31日営業終了)を除く既存店ベース。

２．売上高概況

１）百貨店事業

・６月度の百貨店事業の売上高は、ラグジュアリーブランドや時計宝飾品が引き続き好調を維持し、うふふガールズのクリアランスセールが好調であった婦人服も売上を伸ばしたものの、気温が平年を下回って推移したことにより盛夏のファッション雑貨の動きが鈍かったことに、台風４号により一部店舗の閉店時刻を繰り上げた影響も加わり、大丸松坂屋百貨店合計では対前年▲0.1%減、百貨店事業合計では同▲0.1%減となった。

２）スーパーマーケット事業

・ピーコックストアは、首都圏店舗を中心に競合激化が続いたことに加え、閉鎖店舗（みさと店など計３店舗および１事業所）の影響もあり対前年 ▲9.6%減となった。地区別では、首都圏が対前年 ▲11.2%減、関西地区が同 ▲5.5%減、中部地区が同 ▲9.6%減であった。

３）その他

・卸売事業の大丸興業は、金属樹脂加工品、食品などの好調により対前年37.6%増となった。
・クレジット事業のＪＦＲカードは、加盟店手数料収入が好調であったことなどにより対前年3.9%増となった。
・その他事業は、Ｊ.フロント建装の前年大口計上の反動などによりマイナスとなった。

お問合せ先　Ｊ.フロント リテイリング株式会社　グループ広報・ＩＲ担当
ＴＥＬ　０３－６８９５－０１７８
ＦＡＸ　０３－６６７４－７５６５

２０１２年６月度　百貨店事業　営業報告

１．売上高および入店客数（対前年増減率：%）

	６月度		３～６月度累計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
大丸 心斎橋店	2.7	2.5	1.2	4.8
大丸 梅田店	0.8	▲8.6	6.1	▲2.3
大丸 東京店	▲3.1	▲2.7	13.2	13.7
大丸 ららぽーと横浜店	▲7.0	▲5.6	▲0.8	0.7
大丸 浦和パルコ店	2.3	7.6	4.9	9.6
大丸 京都店	▲1.1	▲0.0	1.5	1.3
大丸 山科店	2.6	▲0.5	▲1.8	▲3.0
大丸 神戸店	4.8	5.8	5.2	6.3
大丸 新長田店	▲5.0	▲2.3	▲1.5	▲2.6
大丸 須磨店	▲6.6	▲2.5	▲1.5	▲2.5
大丸 芦屋店	▲3.9	▲7.2	▲1.9	▲7.0
大丸 札幌店	3.1	0.7	3.9	0.9
松坂屋 名古屋店	3.7	37.1	2.6	32.2
松坂屋 上野店	▲13.3	▲6.7	2.9	4.9
松坂屋 静岡店	▲4.9	5.6	1.2	10.8
松坂屋 銀座店	▲4.0	0.0	8.2	22.4
松坂屋 高槻店	▲2.7	▲6.9	▲0.1	▲2.8
松坂屋 豊田店	5.9	4.7	4.0	3.8
大丸松坂屋百貨店合計	▲0.1	0.1	3.7	5.1
博多大丸	0.5	▲1.2	2.5	▲0.0
下関大丸	▲0.2	1.6	▲0.6	▲4.0
高知大丸	1.4	5.0	0.3	3.9
百貨店事業合計	▲0.1	－	3.4	－

（注）博多大丸および百貨店事業合計の前年は、博多大丸長崎店(2011年7月31日営業終了)を除く。
前年に博多大丸長崎店を含めた6月度の博多大丸合計は対前年▲14.1%減、百貨店事業合計は同▲1.2%減。3～6月度累計は、博多大丸合計同▲9.0%減、百貨店事業合計同2.4%増。

２．大丸松坂屋百貨店　商品別売上高（対前年増減率：%）

	６月度	３～６月度累計
紳士服・洋品	▲0.9	4.1
婦人服・洋品	4.1	7.2
子供服・洋品	▲4.5	0.9
その他の衣料品	▲3.8	3.8
衣料品計	2.4	6.1
身 回 品	▲0.3	0.8
化粧品	3.6	5.9
美術･宝飾･貴金属	0.1	5.3
その他雑貨	▲14.1	▲12.2
雑 貨 計	0.5	4.0
家　具	▲14.1	▲12.6
家　電	11.3	17.5
その他の家庭用品	▲0.0	5.5
家庭用品計	▲3.2	1.1
生　鮮	▲6.0	▲1.9
菓　子	0.4	5.1
惣　菜	1.4	2.7
その他食料品	▲4.7	▲0.0
食料品計	▲2.1	2.0
食堂・喫茶	▲0.5	6.4
サービス	▲19.5	▲14.6
そ の 他	▲5.1	▲1.0
合　　計	▲0.1	3.7

３．売上高概況

婦人服・洋品は、ラグジュアリーブランドが牽引するとともに、うふふガールズなどのクリアランスセールが好調に推移したほか、名古屋店の改装効果も寄与した。紳士服・洋品は、クールビズの定着によりジャケットやパンツは伸ばしたものの、ワイシャツなどが苦戦した。身回品は、婦人靴やアクセサリーなどが活発に動いたものの、パラソルやサングラスなどの盛夏アイテムの動きが鈍かった。雑貨は、化粧品が伸長し、美術・宝飾・貴金属は、高級時計などの催事が盛況であった。食料品は、神戸店が改装効果で２割増と好調を持続したものの、催事が苦戦した。